

明日 への 話題

現在・未来



SMBC日興証券
代表取締役社長

しみず よしひこ
清水 喜彦

現在の特徴は不確実性にある。考え方や価値観がますます多種多様になっていく中で、個人の集まりである企業、国家は単一の目的のみに整合的に行動できなくなる。その故に、複雑に異なる目的を複数保持した集合体が存在し、絡み合い、対峙し、競い合っているのが現在の社会の姿である。

伝統的な戦略理論は、対峙するサイド（相手・敵）と当方サイド（仲間・味方）を明瞭に分けた上で成り立っていた。しかし、現在では対峙するサイドが誰なのか、どのように動くのかが不透明・不明瞭になっている。さらに、当方サイドにおいてさえ多様な出身、利害を有した複雑な集団となり、不安定・不確実さが増している。もはや20世紀初頭に提示された、米ウェストポイント陸軍士官学校教授・マハン大佐のシーパワー理論や、英国地理学者・マッキンダー氏のランドパワー理論の様な、スッキリとした理論が一概に通用しない世界になってきている。

経済活動、資本市場の世界も同じだと思う。世界経済の動向を対峙者とすれば、全ての情報・当事者の考えを正確に知り得る訳ではない。勿論、我々市場に身を置く者は、あらゆる情報を集め、分析して情報を推測することは当然だが、どれほど力を尽くしても、完璧な正解に予め辿り着くことはない。我々は対峙者サイドを不透明・不明瞭と前提した上で、我々の戦略を考えなければならない。

では如何にすべきか？対峙者サイドが不透明・不明瞭であることを変えられないのであれば、当方サイドの不確実性・不安定性を確りと除去していくしかない。今、まさに我々は、不確実性・不安定性を除去するために以下の三点に努めている。第一は、目指すべき方向性・目的を時間軸も含めてハッキリさせ、全員に徹底させること。つまり目的の単一性を保持すること。第二に、それに合致した個々人のミッション・目標を明確にすること。第三に、それらを徹底するために、解り易い言葉で継続的に発信し続けること。この三点を常に意識して経営している。

我社は来年創業100周年を迎えるが、新しい出発点として当社のスローガン「いっしょに、明日のこと。Share the Future」を今一度、顧客本位の理念として徹底し、自社の立ち位置を、また、全社員の思いを一つにして、次の時代の100年の礎を築いて行きたいと考えている。それが不安定な資本市場を相手にする我々に求められることだと思う。